



2027年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年8月13日

上場会社名 南海化学株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4040 URL <https://www.nankai-chem.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 杉岡 伸也
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員業務本部長 (氏名) 長津 徹 (TEL) 06-6532-5596
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2027年3月期第1四半期の連結業績(2026年4月1日～2026年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年3月期第1四半期	4,900	2.5	615	82.3	642	94.0	455	118.9
2026年3月期第1四半期	4,780	3.6	337	△5.0	331	△34.8	208	△38.0

(注) 包括利益 2027年3月期第1四半期 495百万円(197.5%) 2026年3月期第1四半期 166百万円(△56.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年3月期第1四半期	227.98	226.29
2026年3月期第1四半期	103.22	102.63

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年3月期第1四半期	19,494	11,599	58.9
2026年3月期	19,454	11,171	56.8

(参考) 自己資本 2027年3月期第1四半期 11,482百万円 2026年3月期 11,050百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	—	25.00	—	35.00	60.00
2027年3月期	—	—	—	—	—
2027年3月期(予想)	—	30.00	—	35.00	65.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2027年3月期の連結業績予想(2026年4月1日～2027年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	21,700	3.0	2,300	35.3	2,340	32.9	1,260	△54.6
								624.14

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 —社(社名) — 、除外 —社(社名) —

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P.8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2027年3月期1Q	2,330,330株	2026年3月期	2,330,330株
2027年3月期1Q	332,159株	2026年3月期	336,405株
2027年3月期1Q	1,996,705株	2026年3月期1Q	2,015,139株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 有(任意)
監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料3ページ「1. 経営成績等の概況(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況	2
(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	7
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等の注記)	9
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	10
独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書	11

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間における世界経済は、米国の通商政策を巡る不確実性の継続や中国経済の減速に加え、中東情勢の緊迫化等により資源価格高騰や供給の不安定化が生じており、依然として先行き不透明な状況が続いております。日本国内においては、雇用・所得環境の改善が見られる一方、地政学リスクに伴う資源価格や原材料価格の高止まり、日本銀行の利上げや急速な円安の進行等の影響により、予断を許さない状況が続いております。

このような経済情勢のもと、当社グループは2027年3月期までの中期経営計画として「サステナブルな明日を創る」のスローガンのもと、重点施策である、①収益基盤の強化、②環境リサイクル事業領域拡大、③サステナブル経営の推進の達成に向け、諸施策を適切に実施いたしました。

上記の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は4,900百万円（前年同期比2.5%増）となり、損益面につきましては、営業利益は615百万円（前年同期比82.3%増）、経常利益は642百万円（前年同期比94.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は455百万円（前年同期比118.9%増）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

<化学品事業>

基礎化学品につきましては、一部製品においては需要減により販売数量が減少したものの、地域に根ざした販売体制のさらなる強化および価格是正に取り組みました。

機能化学品につきましては、適宜適切な価格是正に取り組み、アグリにつきましては、好天及び中東情勢を受けた先取需要により販売数量増加となりました。

環境リサイクルにつきましては、廃硫酸リサイクルの新規顧客獲得推進等を積極的行いました。

上記の結果、売上高は4,377百万円（前年同期比3.7%増）、セグメント利益は833百万円（前年同期比39.5%増）となりました。

<各種塩事業>

各種塩事業につきましては、気候変動の影響により梅の収穫量が減少し、当社製品の需要が減少した結果、売上高は522百万円（前年同四半期比6.6%減）、セグメント利益は24百万円（前年同四半期比0.1%増）となりました。

(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況

(資産)

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は19,494百万円となり、前連結会計年度末に比べ39百万円増加しました。

流動資産につきましては、主に原材料及び貯蔵品が112百万円増加しましたが、現金及び預金が92百万円、商品及び製品が48百万円減少したことなどにより、前連結会計年度末に比べ35百万円減少し、9,776百万円となりました。

固定資産につきましては、主に機械装置及び運搬具が99百万円、土地が61百万円減少しましたが、一方で建設仮勘定が186百万円、投資その他の資産に含まれる投資有価証券が57百万円増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ75百万円増加し、9,705百万円となりました。

繰延資産につきましては、12百万円となりました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末の負債合計は7,894百万円となり、前連結会計年度末に比べ388百万円減少しました。

流動負債につきましては、その他に含まれる未払金が353百万円増加しましたが、買掛金が415百万円、賞与引当金が176百万円減少したことなどにより、前連結会計年度末に比べ186百万円減少し、4,780百万円となりました。

固定負債につきましては、長期借入金が139百万円、社債が50百万円減少したことなどにより、前連結会計年度末に比べ202百万円減少し、3,114百万円となりました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末の純資産合計は11,599百万円となり、前連結会計年度末に比べ428百万円増加しました。利益剰余金が378百万円増加したことなどによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2027年3月期の連結業績予想につきましては、2026年5月14日の「2026年3月期 決算短信」で公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,040	1,948
受取手形及び売掛金	4,664	4,653
商品及び製品	1,190	1,142
仕掛品	84	111
原材料及び貯蔵品	1,416	1,528
その他	422	399
貸倒引当金	△6	△5
流動資産合計	9,812	9,776
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,527	4,537
機械装置及び運搬具（純額）	2,365	2,265
工具、器具及び備品（純額）	257	250
土地	472	410
リース資産（純額）	20	19
建設仮勘定	137	323
有形固定資産合計	7,780	7,805
無形固定資産	519	500
投資その他の資産	1,329	1,398
固定資産合計	9,629	9,705
繰延資産	13	12
資産合計	19,454	19,494

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,698	1,282
短期借入金	-	300
1年内償還予定の社債	100	100
1年内返済予定の長期借入金	770	721
未払法人税等	251	170
役員株式給付引当金	14	13
賞与引当金	277	101
その他	1,854	2,090
流動負債合計	4,966	4,780
固定負債		
社債	600	550
長期借入金	1,852	1,713
退職給付に係る負債	263	268
資産除去債務	166	166
役員株式給付引当金	-	4
株式給付引当金	151	155
その他	282	255
固定負債合計	3,316	3,114
負債合計	8,283	7,894
純資産の部		
株主資本		
資本金	454	454
資本剰余金	178	178
利益剰余金	11,243	11,622
自己株式	△1,185	△1,170
株主資本合計	10,690	11,084
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	133	130
繰延ヘッジ損益	△8	△3
為替換算調整勘定	235	270
その他の包括利益累計額合計	359	398
非支配株主持分	121	117
純資産合計	11,171	11,599
負債純資産合計	19,454	19,494

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
売上高	4,780	4,900
売上原価	3,358	3,251
売上総利益	1,422	1,648
販売費及び一般管理費	1,084	1,032
営業利益	337	615
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	9	4
賃貸収入	21	15
持分法による投資利益	5	11
補助金収入	2	4
その他	8	12
営業外収益合計	50	49
営業外費用		
支払利息	17	11
賃貸収入原価	11	3
為替差損	11	-
その他	16	7
営業外費用合計	57	22
経常利益	331	642
特別利益		
固定資産売却益	-	37
特別利益合計	-	37
特別損失		
固定資産売却損	-	11
固定資産除却損	40	47
減損損失	2	-
その他	0	-
特別損失合計	43	58
税金等調整前四半期純利益	287	621
法人税等	77	164
四半期純利益	210	457
非支配株主に帰属する四半期純利益	2	1
親会社株主に帰属する四半期純利益	208	455

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
四半期純利益	210	457
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3	△2
繰延ヘッジ損益	0	5
為替換算調整勘定	△46	35
その他の包括利益合計	△43	38
四半期包括利益	166	495
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	164	493
非支配株主に係る四半期包括利益	2	1

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更に関する注記)

(持分法適用の範囲の重要な変更)

当第1四半期連結会計期間より、新たに出資した株式会社高知物流を持分法適用の範囲に含めております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		計	調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	化学品事業	各種塩事業			
売上高					
外部顧客への売上高	4,220	559	4,780	—	4,780
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	23	23	△23	—
計	4,221	583	4,804	△23	4,780
セグメント利益	597	24	622	△284	337

(注) 1. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「化学品事業」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当第1四半期連結累計期間の当該減損損失の計上額は2百万円であります。

当第1四半期連結累計期間(自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		計	調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	化学品事業	各種塩事業			
売上高					
外部顧客への売上高	4,377	522	4,900	—	4,900
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	12	12	△12	—
計	4,377	534	4,912	△12	4,900
セグメント利益	833	24	858	△242	615

(注) 1. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
減価償却費	287百万円	299百万円

独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2026年8月7日

南海化学株式会社

取締役会 御中

仰星監査法人

大阪事務所

指定社員

業務執行社員

公認会計士 里見 優

指定社員

業務執行社員

公認会計士 西田 直樹

監査人の結論

当監査法人は、四半期決算短信の「添付資料」に掲げられている南海化学株式会社の2026年4月1日から2027年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2026年4月1日から2026年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2026年4月1日から2026年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び期中連結財務諸表に係る我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び期中連結財務諸表に係る我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して四半期連結財務諸表を作成することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び期中連結財務諸表に係る我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び期中連結財務諸表に係る我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び期中連結財務諸表に係る我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の期中レビュー報告書の原本は当社（四半期決算短信開示会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータ及びHTMLデータは期中レビューの対象には含まれていません。